



◇外観 曲線を描くデザインが上質さを物語るエクステリアに木製サッシで飾られた窓の連なりが、更に温もりと品格を与えています。



◇キッチン キッチン内に設えられたヌックで過ごす朝食やティータイムは、ご家族の大切なお時間となることでしょう。



◇寝室 シックでエレガントな色調に包まれた寝室には、気品と優雅さが匂い立っています。

家を建てる前に、まず、妻と一緒に松永先生が主催した『風水の開運ツアー』に参加しました。「肩に力が入らずに自然に話ができる人」との印象を妻も持ち、ふたりで安心して家を依頼することに決めました。

『人間的に成長する家』が祈念した願意です。そのように願って家を建てることにしてから、面白いように自分たちの興味やもの見方が変わっていききました。それは「絵がたくさん飾れる家」に住まうことが子どもの頃からの夢だった。それまでは、単なる趣味で絵画やアートに触れてきたのですが、家を建てることになっていったようです。また、アートを通じて新しい良い出会いも増え、その都度ごとに新鮮な発見や気づきが生まれ、とても積極的・行動的な性格になっていきました。私も発想の広がりや興味の変化を感じました。「ものの意味やモチーフ」などを重要視するようになり、ものに対する見方が変わっていくことで、心も変化して、その結果、自分自身のエネルギーが高まっていくような感覚を感じました。私がかかわった場所は「トイレ」と「寝室」でした。「トイレ」は物事を考える場所として最適な場所ではないかと思っています。「ひらめき」を誘発し、空想や想像を膨らませることができるよう「瞑想空間」に仕上げるために、少し広めのスペースと音楽がいつでも流せるような工夫をしました。

妻は「家事の導線」を工夫したようです。毎日の家事作業の中でもマンネリ化しないように、自分が行きたいな、と思うような導線づくりをしました。また、アンティークの家具やインテリアのコレクションが趣味なので、彼女の部屋はそのような空間に自分自身で考えて作り上げていったようです。

しかし、一番の収穫は、「この家を造ったことを一生、忘れないよ」。私たちのこだわりや念いが、彼らの職人魂に少しでも触られたのであったのなら、とても幸せなことです。

Q2 『風水住宅』に実際に住まれるまでに、どのような変化や体験がありましたか……。



上◇和室 和室前室の出入口には、「光」を書いた芸術的かつ美しい掛け軸が印象を際立たせています。
右◇リビング 暖炉をフレームの中に配置し、モダンアートのような佇まいを演出したリビングでの炎のゆらめきは、見る人の想像力を掻き立てることでしよう。

「この家を作らせてもらったことを一生、忘れないよ」
竣工後、職人たちの口々から発せられた
この言葉に象徴された、モノづくりに対する
こだわりや楽しさが、一歩
家の中に足を踏み入れた瞬間から感じられる。
人がエネルギーを生み出し、家を作り上げていく…。
依頼主と作り手が気持ちを合わせ
一心同体となって創り上げた一棟の邸宅が
近隣周辺的环境をも一変させた。



風水住宅を訪ねて 千葉県八千代市・S様邸

家を建てることを決心した頃から、大きな変化が現れ始めた。
 自分自身に目を向けることで、エネルギーが高まる……。

風水インタビュー
FENG-SHUI Interview

松永先生の「自分自身が幸せな人間が、はじめて他人を助けることができる」という言葉がありますが、今は本当にそう感じられるようになってきました。この地、この家から将来的には何かを発信していけるようなことができればと今、地域の人たちと定期的に集まって考えを膨らませているところです。

Q3 『風水住宅』に住まれて、どのような変化や周りからの反応がありましたか……。

まず大きな変化は、自分たち自身に目を向けるようになったことです。たとえば以前ならば、少しぐらい体調が悪くても、仲間たちと酒を飲みに出かけたりしていたのが、今では、まっすぐに家に帰りゆったりとした気持ちを取り戻し、力を蓄えるようになりました。また、娘とスキップする時間が増えました……。彼女の勉強をみる機会が増えたことでコミュニケーションがとれ、親子の仲も以前より良くなりました。おかげで成績もどんどん良くなりました。

満月の夜は養老まで行けない分、和室の中でひとりメデイテーションをし、心を落ち着け、自分と対話する喜びも覚えました。

妻は、「何かに護られていることで、自分は運が良い。なので、どんなピンチが来たとしてもクリアできる」。『自分が生かされている』という言葉を理解できるようになった。その結果、「こんな素晴らしい家に住める幸せを分かち合いたい……」と、チャンスに恵まれた自分の人生の意味を感じ、強く意識するようになった。また、こうしたことを気づかせてくれたこの家と境遇に感謝し、社会貢献ができる何かを始めた。現在、積極的に勉強を始め、また、交友範囲も大きく広がり、とても行動的な人生をおくり始めています。

この家を建てる決心してから、また、住み始めてから私たちが家族の人生は大きく変わりました……。そのことを自分たちがしっかりと意識していることで、きっと「前向きなエネルギー」を発せられるようになったのではないかと思います。その結果、以前と比べてもより多くの良い人たちが私たちが家族の周りに集まってくるようになり、この家にもたくさんの人たちが訪れて来られるようになりました。



◇玄関 床面と天井が美しく、特徴的な玄関ホールが存在感を放つ。井面に描かれた曲線の印象的な玄関ホールがあります。

Q1 『風水住宅』との出会い、建てることになったきっかけとは何だったのでしょうか……。

以前に住んでいたマンションが手狭になり、新しいマンションを購入しようと考えていたときに、オフィスを移転する契機をつくって頂き、また、そのことで「縁ができた松永先生に相談したことがきっかけです。オフィスを『風水住宅』にしたことで、様々な変化が現れてきました。それまでは、社外での会議やミーティングがほとんどだったのですが、「この空間は過ごし易いね」とか、「落ち着いて会議ができる」と顧客の方々からの評判がすこぶる良くて、皆さんが頻りに会社に来てくださるようになりました。

「顧客に信用され、信頼される会社づくり」を目的にオフィスを新装した結果が、こんなに短期間に如実に現れてきたことに、正直びっくりしました。また、妻が会社を訪ねてきたときに「とてもスタイリッシュな家を訪問したときの印象のオフィスね」と、その温かみや雰囲気を入り込んでくれたのも、思い切つて家を建てることを決意した原因のひとつです。

起業までの間に、日系・外資系の会社の双方で働いてみて、やはり「サラリーマンは組織のパーツのひとつに過ぎない」という現実を実感していました。『鶏口牛後』という故事が好きで、「自分が本当にやりたいことや念いを実現させてみたい」との思いが募り独立をしましたが、フアンド事業というのは、常識ではなかなか理解し難い事業フィールドでもあります。起業した当初は、困難なことも多々あり、そのときに、昔からの顧客の方々にも多くの支援を頂き、上昇機運を掴むことができました。

そのような実体験から「縁」や「目に見えない力」などという世界に興味以上のものを感じていました。また、妻も子どもの頃から母に「目に見えない力に護られ、動かされていることに感謝しなさい」と教育されてきたこともあり、松永先生の世界観や縁などをすぐに理解してくれました。私たちは、本当な若い夫婦が一棟の家を自ら建てたということは、本当は大変な冒険なかも知れませんが、様々な出会いと気づきと縁が、この家を建てさせてくれたと思っています。